

# 記載要領

様式第4の八（第4条、第5条関係）

## 屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		1			
2 貯蔵する危険物の概要		引火点		貯蔵温度	
基礎、据付方法の概要		3			
タンクの構造・設備	形状	4	5 常圧・加圧 ( kPa )		
	寸法	6	容量	7	
	材質、板厚	8			
	9 通気管	種別	数	内径又は作動圧 mm kPa	
		種別	数	作動圧 kPa	
	10 安全装置				
	液量表示装置	11	12 引火防止装置	有 ・ 無	
	不活性気体の封入設備	13	タンク保温材の概要	14	
注入口の位置	15	16 注入口付近の接地電極	有 ・ 無		
17 防油堤	構造		容量	排水設備	
ポンプ設備の概要	18				
避雷設備	19				
配管	20				
消火設備	21	タンクの加熱設備	22		
工事請負者住所氏名	23			電話	

備考 この用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とすること。

## 記載要領

### [ 屋外タンク貯蔵所構造設備明細書記入要領 ]

1. 「事業の概要」欄は、事業の内容について具体的に記入する。
2. 「貯蔵する危険物の概要」欄中、「引火点」欄は、中仕切りタンクの場合、最も低い引火点を記入し、「貯蔵温度」欄は、加熱設備等常温以外の状態で貯蔵する場合に記入する。
3. 「基礎、据付方法の概要」欄は、例えば「 m P C 杭を 本を打設し、その上に厚さ . m の鉄筋コンクリート基礎を設ける。タンク下部は、アスファルトモルタルを敷設する。」等と記入する。
4. 「形状」欄は、形状及び屋根形状を「縦置円筒型（コーンルーフ）」「横置円筒型（中仕切り）」等と記入する。
5. 「常圧・加圧の別」欄は、水高圧力 5 0 0 ミリメートル以下のタンクについては「常圧」に をつけ、その他のタンクについては「加圧」に を付け、その圧力を記入する。
6. 「寸法」欄は、内径、高さ、側板高さ、胴長、鏡出等を記入する。
7. 「容量」欄は、「内容積 リットル、空間容積 リットル（ . % ）、容量 リットル」と記入する。
8. 「材質、板厚」欄は、縦置円筒型の場合、「底板 mm S S 4 0 0、側板最下段 mm S S 4 0 0、2 段 mm S S 4 0 0、・ ・ 最上段 mm S S 4 0 0、屋根板 mm S S 4 0 0 等」と記入し、横置円筒型の場合は、胴板、鏡出について、角形の場合は、側板、底板、屋根板について材質、板厚を記入する。
9. 「通気管」欄中、「種別」は無弁通気管又は大気弁付通気管の別、「数」はタンクに設けられる数、「内径又は作動圧」は無弁通気管にあつては内径、大気弁付通気管にあつては内径及び作動圧をそれぞれ記入する。
10. 「安全装置」欄は、圧力タンクに該当するタンクについて記入するものとし、「種別」は規則第 1 9 条第 1 項各号に掲げる種別、「作動圧」は「 kPa」等と記入する。
11. 「液量表示装置」欄は、例えば「浮子方式による液面指示計」等と記入する。
12. 有・無のいずれかに を付ける。
13. 「不活性気体の封入設備」欄は、設備等の概要を記入する。例えば「窒素ガスシール。増減圧時の警報設備を設置」等と記入する。
14. 「タンク保温材の概要」欄は、タンク外面に保温材が使用されている場合に、その材質、固定方法等を記入する。
15. 「注入口の位置」欄は、例えば「 タンクの南西側 m に注入口（注入口数口）を設置。」等と記入する。
16. 有・無のいずれかに を付ける。
17. 「防油堤」欄中、「構造」は、例えば「鉄筋コンクリート造（高さ mm、厚さ mm）」等と、「容量」は「 リットル」と、「排水設備」は、例えば「集水桝 基を防油堤内に設け、これより金属管により排水。堤外吐出口付近にしゃ断弁を設置」等とそれぞれ記入する。
18. 「ポンプ設備の概要」欄は、ポンプ種類、基数、防爆構造、ポンプ室の場合は建物構造等を記入する。例えば、「ギャーポンプ 基、モーター kW 基（受入）モーター kW 基（払出）」等と記入する。
19. 「避雷設備」欄は、J I S A 4 2 0 1 によるとともに、その概要を記入する。
20. 「配管」欄は、材質、口径、接続方法、防錆・防食方法を記入する。
21. 「消火設備」欄は、該当設備を記入する。
22. 「タンクの加熱設備」欄は、タンクに設置する加熱設備の概要及び加熱媒体を、例えば、「 S G P 4 0 A スチームコイル」等と記入する。
23. 「工事請負者住所氏名」欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入する。